論　文　ニダバ (*Nidaba*) 35(2006), 29-38

スラブ語の定性表現の機能構造

― 定・不定名詞句ＦＰにおけるバルカン・スラブ語と中欧スラブ語のタイプ比較 ―

本　城　二　郎

０．序論：スラブ語の類型的特徴

スラブ語は、形態類型論的には、屈折タイプに属する北スラブ語（中欧スラブ語：西スラブ語・東スラブ語）＆南スラブ語北部グループ（スロベニア語・セルビアクロアチア語）および分析タイプに属するバルカン・スラブ語グループ（ブルガリア語・マケドニア語）の２種類に分類することが可能である。スラブ語全般の共有特徴つまり汎スラブ語的特徴としては、文（および名詞句）要素のＦＳＰ構成が挙げられ、他の主要な言語構成原理である結合価および定性に対して階層的に上位を占めることが知られている。個別言語的には、そのうち定性／不定性カテゴリーの表示の形式的（文法的）手段の分布において、大きくバルカン・スラブ語タイプと中欧スラブ語タイプに二分することが可能である。本論は、この２種のタイプの観察を通じてスラブ語の定性表現のＦＳＰ機能構造を探ることを目的とする。

１．スラブ語における定性／不定性の形式的（文法的）手段

スラブ語に、定性／不定性を表示するための形式的手段として、冠詞・限定詞・３人称代名詞・名詞句無標語順が挙げられる。本節では、定性カテゴリーの類別に基づきスラブ語のタイプ分類を試み、主要な２大タイプを代表するブルガリア語およびチェコ語における具体的な形式的手段の体系の対照比較を試みる。

１．１．定性カテゴリーの有無と類別によるスラブ語のタイプ分類

スラブ語は、下記の４種の定性カテゴリー表示子の有無および可能な組合せにより、３つのタイプに分類されるが、特に冠詞（(1)）の有無と指示詞（(2)）の共起の可能性の観点から、バルカン・スラブ語タイプとそれ以外のタイプに大別可能である。

(1)文法的定性カテゴリー表示子(冠詞):	+	−	−
(2)語彙的定性表示子(指示詞等):	+	+	+
(3)統語的定性共表示子A(述語動詞:存在動詞vs.属性動詞):	+	+	+
(4) B(語順:Th−Rh語順*)		+	
[スラブ語のタイプ]:	[バルカン・スラブ語]	[中欧スラブ語&南スラブ語北部グループ]	[東スラブ語]

定性表示子共起の可能性：(1)／(2)＋(2)

定冠詞／指示詞と所有形容詞の共起が規則的な場合：

①**Bul. moj*ata* šapka(私の(その)帽子)、tazi moja šapka(私のこの帽子)**

1．2．ブルガリア語の（定性プロパー）後置冠詞・（定性／不定性）限定詞の体系 vs.チェコ語の（定性／不定性）限定詞の体系

ブルガリア語とチェコ語の定性カテゴリーの形式的手段は、以下の個別分布体系の対照比較から明かなように、前節において抽出された＋冠詞vs.＋Th-Rh語順という示差的特徴の対立関係を表示する。

［ブルガリア語］ **［チェコ語］**

i．●後置冠詞：定名詞句の(副詞を除く)第一要素への接尾後置詞で、その語形は主軸名詞の性・数(男性単数名詞の場合、-t付き主格と-t無し目的格の対立において顕在化する格)に一致する。

単数：一子音で終わる男性名詞：**-(*j*)*ĭt*(主格形) glupec*ĭt*(その愚か者)**

-(*j*)*a*(目的格形) staj*ata* na profesor*a*(その教授の部屋)

-aで終わる男性名詞/女性名詞：**-*ta* žen*ata*(その女・妻)**

一子音で終わる女性名詞：**-*ta* pesen*ta*(その歌)**

nov*ata* pesen(その新しい歌)

-oで終わる男性名詞/全ての中性名詞：**-*to* mjast*oto*(その場所)**

複数：-aで終わる複数名詞：**-*ta* mest*ata*(その場/複数/)**

novi*te* mesta(その新しい町)

-i/-eで終わる複数名詞：**-*te* žen*ite*(その女・妻たち)**

ii．●限定詞：

Bul.：定/不定名詞句の第一要素への分離前置要素で、指示代名詞と所有形容詞と不定代名詞と不定冠詞(数詞)に下位分類され、その語形は主軸名詞の性・数に一致する。

Cz.：指示代名詞と所有形容詞と不定代名詞とに下位分類され、その語形は主軸名詞の性・数・格に一致する。

●指示代名詞：

Bul.：男性形：**tozi/toja**(この・その)
onzi/onja(あの)
takĭv(そのような)
女性形：**tazi/taja**
中性形：**tova/tuji**(この・その・これ・それ)
複数形：**tezi/tija**(これらの・それらの)

Cz.：男性形：**ten/-to/tam-**(この・その)
onen(あの)
takový(そのような)
女性形：**ta/-to/tam-**
中性形：**to/-to/tam-**
複数形：**ti|ty|ta**(これらの・それらの)

Tova sa moi*te* novi drexi.
(**これは**私の新しいドレス/複数/です。) ☜ 繋辞の主語は常に中性単数形で動詞は補語と一致

/-to/tam- ☜ ten～tento～onenは古スラブ語の近称～中称～遠称の名残り

●所有形容詞：

Bul.:単数：1人称形 **moj**(私の) 2人称形 **tvoj**(君の)
3人称形・男/中性指示 **negov**(彼の・それの)
女性指示 **nein**(彼女の)
複数：**naš**(我々の) **vaš**(君たちの・貴方たちの)
texen(彼ら/彼女ら/それらの)
自称形：**svoj**(自身の)

Cz.:単数：1人称形 **můj**(私の) 2人称形 **tvůj**(君の)
3人称形・男/中性指示 **jeho**(彼の・それの) /不変化/
女性指示：**její**(彼女の) /形容詞軟変化/
複数: **náš**(我々の) **váš**(君たちの・貴方たちの)
jejich(彼ら/彼女ら/それらの)
自称形：**svůj**(自身の)

Az vzex **svoja*ta*** kniga.(私は**自分の**本を取った。)≒Az vzex kniga **si**.
moja*ta* (私が取ったのは**自分の**本だ。)

●不定代名詞：

Bul.:「何か」**nja-/ne-**疑問詞：**njakoj**(誰か/男/)
「ある」**edi-**疑問詞 **si:edi-koj si**(ある人)
「どの~でも」疑問詞 **da e:koj da e**(誰でも)
「全ての」**vs-**形容詞変化形**:vseki**(皆・全ての人・各人/男/)

Cz.:「何か」**ně-**疑問詞：**někdo**(誰か/男/)
「ある」疑問詞**-si:kdosi**(誰か)
「どの~でも」疑問詞**-koli(v):kdokoli**(誰でも)
「全ての」**vš-**疑問詞短縮変化形**:všichni**(全ての人/男/)

●不定冠詞（数詞）：＝基数詞「1」

Bul.: **edin** čovek(ある人・(一人の)人)
edna kniga((一冊の)本)

Cz.: 数詞用法のみ：**jeden** člověk(一人の人)
jedna kniha(一冊の本)

iii. ●3人称代名詞：

Bul.:単一独立形の前方照応代名詞で、語形は先行名詞の性・数に一致する。

toj(彼/男単/) **to**(それ/中単/) **tja**(彼女/女単/)
te(彼ら・彼女ら・それら/複数/)
nego/go/mu(彼を/~に) **neja/ja/i**(彼女を/~に)
tjax/gi/im(彼らを/彼らに)

Cz.:単一独立形の前方照応代名詞で、語形は、性・数が先行詞に、格が文中での統語機能に、それぞれ一致する。

on(彼/男単/) **ono**(それ/中単/) **ona**(彼女/女単/)
oni/ony/ona(彼ら・彼女ら・それら/複数/)
jeho/ho/jej/-ň/jemu/mu(彼を/~に)
je/jim(彼らを/~に)

iv. ●名詞句要素の無標語順：

Bul.: [指示代名詞] [所有形容詞] [数量限定詞] [形容詞] [名詞] [前置詞句]

tezi	**moi**	**dve**	(mnogo)	**skapi**	**novi**	**knigi**	**ot Germanija**
(この	私の	2つの	とても	高価な	新しい	本	ドイツから)

Cz.: [数量決定詞] [指示代名詞] [所有形容詞] [形容詞] [名詞] [前置詞句/後置修飾句]
([数量限定詞]) ([後置類別形容詞])

Všechny	**tyto**	**moje**	**černé**	**kabáty**	**visící na balkóně**
(全ての	これらの	私の	黒い	コート	バルコニーに掛けてある)

2．定性表現におけるバルカン・スラブ語タイプと中欧スラブ語タイプの比較分析

定性表現におけるバルカン・スラブ語タイプと中欧スラブ語タイプの差異は、ブルガリア語とチェコ語において特に顕著である。本節は、定性表現の定義づけに基づき、統語的文脈条件の相違が定性表示子の形式手段の選択に関与的であることを検証する。

2．1．ブルガリア語とチェコ語における定性表現の形式（文法）構造比較分析

語用論的観点から、定性表現は、形態付与の有無にかかわらず情報の既知性条件により規定されることから、既知情報に関与的な文脈条件３種つまり既述・直示・共有知識を表示するための形式的手段の列挙が求められる。他方、統語論的には、先行詞を受ける後続詞の文内統語的位置の相違が文脈条件を反映することから、統語的依存位置または統語的独立位置における可能な形式的手段の分布を観察することを通じて、両言語におけるの定性表現の比較分析が可能となる。

定性表現（／名詞句）の定義：

定性表現（／名詞句）とは、話し手の頭の中にありかつ話し相手にとり既知であるような情報のことをいう。既知情報は、次の３つの語用論的前提の一つから成立する：

ｉ．先行言語文脈の伝達情報の推移または既述

②Cz. **Marie měla zahrádka. Pěstovala v ní růže./v té zahrádce pěstovala růže.**

（マリエは、小さな庭を持っている。彼女は、**そこで**薔薇を育てている/**その**小さな庭で、彼女は薔薇を育てている。）

先行詞　→/同一/の関係・/要素一類/の関係・/シノニム/の関係→　前方照応名詞（＝後続詞）

ii．非言語的伝達状況つまり直示

③Cz. **Vidíš tamhleten vysoký strom? (あそこのあの**高い木がみえるか?)

指示対象　→　指示詞：伝達シーン中における指示対象の存在と確認の関係　/外方照応:EXOPHORA/

iii．伝達に先立ち、話し手と話し相手に共有され、ポテンシャルな発話の世界を形成する知識や経験や文化的・社会的規範の総体

④Cz. **Včera jsem si koupil pěknou knihu. Autora znám už dávno.**

（昨日、私はきれいな本を買った。著者は、ずっと以前に知っていた。）　先行詞　→/連想・含意/の関係→　前方照応名詞（＝後続詞）

統語的依存位置にある限定詞：**'ten'** 名詞句vs. **'φ'** 名詞句

●前方照応的限定詞の場合：**'ten/tento/onen'** と **'φ'** の対立

［汎スラブ語的特徴］:

	［先行詞］	［後続詞］
ｉ．	唯一的意味を持つ名詞句（文脈定着の人名・事物名）	→φ前方照応指示詞
ii．	［タイプ・方法・理由・原因・疑問・問題・こと・関係・目的・人物・題目・時期・日］等の範疇名詞により表示されるテーマ位置前方照応名詞句	→義務的付加の指示詞
iii．	具体的行為・状態を示す動詞句	→指示詞付き名詞句

動詞句共指示の指示詞 **'tova'**（これ、この）の例：　☜ 汎スラブ語的 "to" を参照

⑤Bul. **Toj gledaše kak po asfalt*a* preminavat chora s čadări. Tova šestvie na čadări*te*...** （彼は、アスファルトに沿ってパラソルを差した人々が進んでいる様を眺めていた。**この**パラソルの列は、...）

iv．長い共指示名詞句ストリング中での指示詞繰り返しを回避するための方策として、名詞句→対象個別化を表示する **'ten'**（これ・この）→非再叙の共指示φ名詞句

⑥Cz. **Byl jeden král a ten/ten král měl tři dcery. Jednou se (král) rozhodl,...**

((一人の)王様がいまして、**その**王様には娘が3人いました。ある日、(王様は)...を決心しました。)

［個別的言語的特徴］:

Th-Rh語順と定性名詞句との関係、とりわけRh要素と文末位置との強弱関係により、前者つまり（整合的Th-Rh語順による）文末レーマ遵守のチェコ語に代表される'中核的'スラブ中欧語と後者つまり（非整合的Th-Rh-Th語順による）文末テーマ許容の他のスラブ語の２タイプに大別可能である。

⑦Bul. [Na sever ot selo*to* ni započvat tъmni gori...] Mnogo daleko se prostirat **tezi** gori, na zapad se sъedinjavat s Balkan*a*

(その村から北には、深い森が始まっていて...。**その森は**はるか遠くに続いていて、西はバルカン山脈に連なっている。)

... Mnogo daleko se prostirat **tezi** gori,... ☜ レーマ定動詞後位置の限定詞付テーマ名詞句

Th Rh Th バルカン・スラブ語は非整合的Th-Rh-Th語順を許容

⑧Cz. Olga se otázce vyhnula. //Nikdo si nikdy klíč **od nich** nebral.

Th Th Rh Th Th Rh

(オルガは質問を避けた。//誰も**彼らから**鍵を取ってはいなかった。) ☜ '中核的'スラブ中欧語としてのチェコ語は整合的Th-Rh語順を遵守

●状況的限定詞の場合：

定冠詞機能に近いと見なされる状況的限定詞'ten'タイプの使用に関しては、既に20世紀初めに一般化しているチェコ語やドイツ語定冠詞の影響下で頻用されているソルブ語、それに近年に使用が確認されているポーランド口語など西スラブ語に対して、未発達なロシア語および文法化定冠詞を実現しているバルカン・スラブ語が対極に位置する。

⑨Bul. Ilja, ne drъž nož*a* kato kasapin. (イリャ、屠殺屋のように**その**ナイフを手で持っていてはいけない！)

⑨´Cz. Iljo, jak to držíš **ten** nůž? (イリャ、**その**ナイフを手で持っていてはいけない<なぜ**その**ナイフを手で持っているのか?)

'ten＋固有名詞'の使用は汎スラブ語的で、その際固有の唯一対象限定的機能を担う固有名詞への限定詞の付加は冗長的となり、その結果限定詞のそれは内包的機能（話者の態度・評価等の機能）を持つことになる。

⑩Bul. Otkъde se nameri **toja** Tantil? (タンチル**たち**、どこから見つかったのか?)

⑩´Cz. **Ten** Pavel to zase vyhrál. (パベル**ときたら**、また勝った。)

●連想的／含意的限定詞の場合：

前方照応限定詞が先行名詞＝後続名詞の条件下で意味的同一（同義）関係により連結機能を担うのに対して、連想的／含意的限定詞は、先行名詞⊂後続名詞の条件下、意味的含意関係により連結機能を持つようになると見なされる。

⑪Cz. Náves stíní stará lípa. **Ta(to)** lípa pamatuje třicetiletou válku.

((村の)緑地に古い菩提樹が陰を落としている。) **Lípa/Ta/**ϕ ...

(**その**菩提樹**は**/菩提樹は/**それは**、30年戦争を思い起こさせる。)

Její koruna je už proschlá.

Koruna lípy/Koruna

*Ta(to) koruna ☜ 名詞の同一性の条件に反するので前方照応限定詞の使用は不可

(その天辺は/菩提樹の天辺は/天辺は、すでに乾き切っている。)

統語的独立位置にある限定詞：'ten' vs. 'on' vs. 'φ'

現実の語彙的・状況的文脈の影響下、これらの対立は、各スラブ語に固有の意味・文法・韻律構造の許容範囲において実現される。従って、汎スラブ語的な特徴もあれば、各スラブ語に固有な特徴も存在する。限定詞の選択は、著者の機能的文体にも依拠する。

●主語位置における人称代名詞／前方照応的限定詞vs. φ名詞句の対立の場合：

先行文Th要素（主語）＝後続文Th要素（主語）の共指示条件下では、前方照応要素の形態選択において各スラブ語は固有の傾向を持つ。中欧スラブ語および南スラブ語北部グループではチェコ語がφ主語をポーランド語がφ主語または非文頭（つまりICを担わない）位置代名詞主語を、東スラブ語（ロシア語）およびバルカン・スラブ語（ブルガリア語）では、先行文中のRh要素＝後続文中のTh要素（主語）の共指示条件下も含め、文頭位置人称代名詞主語を、それぞれ頻用する。前方照応要素の形態的相違は、テキスト中のTh要素連鎖（テーマ発展）にも反映され、以下のタイプ分けが可能である。

Ⅰ．東スラブ語＆バルカン・スラブ語：{名詞句→代名詞→代名詞→...→代名詞}

Ⅱ．中欧スラブ語＆南スラブ語北部グループ：{名詞句^{i}→φ→φ→...→名詞句^{i}}

チェコ語では、３人称代名詞主語の使用により（無標ではφ主語の使用による先行Th主語との）連結機能のみならず（先行Rh要素との共指示関係により）主題機能（より正確には“取り立て”機能）も実現されることになる。

⑫Cz. Tereza je v téhle zimě tuze přičin livá. Všechnu práci dělá s rozvahou a důkladně, s přesností, tak jak to má ráda. (φ/Ona) Má onen pocit jistoty.

(彼女には/については、そのような確実性という感情がある。)

バルカン・スラブ語では、無標の前方照応３人称代名詞主語の頻用が確認されている。

⑬Bul. Prodavačka razpozna edin ot postojanni*te* klienti. Kniga*ta*, kojato toj tărseše, tja nameri s takăva lekota, če sama se iznenada.

(売り子の女性は、常連客の一人に気づいた。彼女は、その人(＝彼)が探していた本をとても素早く見つけたので、自身驚いた。)

●主語位置における前方照応的限定詞vs. 人称代名詞の対立の場合：'ten' vs. 'on'

○先行詞との関係：

後続詞要素の形態選択は、先行文中における共指示先行詞要素のＦＳＰ機能つまりTh要素なのかRh要素なのかに応じて決定される。スラブ語では、その際、指示代名詞vs. 人称代名詞vs. φ形態要素の選択が関与する。相対的に、'ten'タイプの指示代名詞の作用域は中欧スラブ語が最大で、それに南スラブ語北部グループが続くものの、東スラブ語は比較的小さく、他方'on'タイプの人称代名詞の機能負担についてはバルカン・スラブ語が特に顕著である。一般的には、前者つまり'ten'タイプが直前遠称先行詞と、後者つまり'on'タイプが直前近称先行詞と、それぞれ前方照応関係を示す。

⑭Cz. Na dálnici včera narazila v plné rychlostí avie z Nitry do pomalu jedoucí nákladní soupravy naložené šterkopískem. Zatímco **ta** mohla po nehodě odjet, zůstala avie nepojízdným vrakem.

(...，他方、**それ**[=トラック] **は**、事故後に出ていくことが出来たが、特急は走行不能の列車のままだった。)

［分析］ 先行文のFSP: Th要素:avie z Nitry(ニトラからの特急) Rh要素:nákladní soupravy(トラック):先行詞

後続文の後続詞: /共指示関係/の指示代名詞:ta(それ)

ブルガリア語は、'ten'タイプの代用として'on'タイプを汎用する傾向がある。

⑮Bul. [1]Sjadachme pred koliba*ta* **Tja** beše ostrovrăcha, s širok triăgălen vchod.

[2]Pokriv*ăt* í beše ot lozina i slama. **Toj** proziraše i beše prijatno da gledaš prez proluki*ta*

(我々は、小屋の前に座っていた。**それ** [=小屋]**は**、屋根が尖っていて、幅の広い三角形の入り口がついていた。その屋根は、蔓と藁で出来ていた。**そこ** [=その屋根] **は**、覗けたので、君は穴から見て嬉しかったよね。)

［分析］ 先行文[1]のFSP: Rh要素:kolibata(小屋):先行詞

後続文[1]の後続詞: /共指示関係/の人称代名詞(女性3人称単数):tja(彼女・それ)

先行文[2]のFSP: Th要素:pokriv*ăt* í(その屋根)

後続文[2]の後続詞: /共指示関係/の人称代名詞(男性3人称単数):toj(彼・それ)

○後続詞のＦＳＰ機能：

後続詞の形態選択は、自身が担うTh機能の内的上昇（具体的にはThPr/Th/DTh* の順序で上昇する伝達機能）に応じて決められ、'φ'タイプ＜'on'タイプ＜'ten'タイプの階層関係を設定することが可能である。そのうち'on'タイプは、遠称先行詞との共指示において、対照・テキスト再導入・「～について言えば」言い換え等の意味制約を持つ。

⑯Cz. Ten Šítkovský vodník hlídal Vltavu, aby nevyschla; povodně **on** nedělal, ty dělají venkovští vodníci z horní Vltavy.

(このシートコフの水の精は、ブルタバ川の水が干上がらないよう見張っていた。洪水は、**彼**ではなくブルタバ川上流からきた田舎の水の精が起こしたのだ。)

［分析］ 先行文の先行詞: Th要素:ten Šítkovský vodník(このシートコフの水の精)

後続文[1]の後続詞: /共指示関係/のDTh要素:on(彼):人称代名詞主語 ⇐/対照関係/⇒ 後続文[2]の名詞句主語:Rh要素

○先行詞の意味内容：

先行詞の活動性（人称性）の大小に応じて、大（「人間」かそれに近いもの）の場合は後続詞の形態付与に多様な語彙的手段があるのに対して、小（「もの・こと」かそれに近いもの）の場合は（特に汎用される指示代名詞等の）限られた手段しか許容されない。

⑰Cz. Stará se o syna. **Ten/On** je jeho pýchou. (彼は、息子の世話をしている。**息子は**、彼の誇りです。)

... dům. **Ten** ... (...家の....。**それは**、...)

動詞やモダリティ副詞の意味内容・意味関係に応じて、共指示先行詞の確定および共指示後続詞の形態選択が確定する場合もある。

⑱Cz. Petr půjčil Pavlovi knihu. **On/Ten/** [φ] mu ji ztratil.

（ペトルは、パベルに本を貸した。）　　（彼は、それをなくした。）

［分析］　先行文の先行詞：Th要素:Petr(ペトル) Rh要素:Pavel(パベル)

↓/共指示関係/⇐「AがBに貸す>BがAから借りる>Bが持っている>Bがなくす」

後続文の後続詞：　　Th要素:on(彼)/ten(それ)/［φ］☜ 動詞の変更に伴う項の意味関係のスイッチ

●汎スラブ語的'to'（＝先行動詞句／先行文／先行テキスト部分の前方照応詞）

中性形は状況・事実が指示対象で、この用法は全スラブ語で汎用されている。

⑲Cz. Tam ［=za staženou oponou］pobíhá pan B., už oblečen v kostým pana A., ... ［...］Prožil jsem to sám mnohokrát.　（...，私自身、それを何度も経験した。）

⑳Bul. Po ulici*te* se pojavicha lokvi, razširicha se, padašti*te* dъ̆ždovni kapki v tjach pravecha mechuri; tova veštaeše novi dъ̆ždove.

（...，それは、新しい雨の前兆となっていた。）☜ tova 'that'/中性単数指示代名詞/

（直前文に対する）後続詞'to'は［'to'＋繋辞＋名詞補語］のシンタグマを持った同定文／属性文において用いられ、３人称代名詞'on'と対立することになる。'to'使用の語用論的前提は、対応する指示先行詞が話し相手に未知かまたは話し手に不確定かの条件である。それゆえ、冠詞を持つバルカン・スラブ語では、'on'タイプ同定文の述語名詞句への定冠詞付加が義務的となる。

㉑Cz. Pamatuješ se na toho muže, kterého jsme potkali včera v galerii. To je můj učitel francouzštiny.－同定文－

（我々が昨日ギャラリーで出会った男性を覚えているか？それは、僕のフランス語の先生だ。）

㉒Bul. Njakoj počuka na vrata*ta*. Tova/*Toj beše razdavač*ъ̆t*.－同定文－

（誰かが扉を叩いた。それは、郵便配達人だった。）☜ toj 'he'/男性3人称単数人称代名詞/

非人称文における'to'表示／φ表示のバリアントは、バルカン・スラブ語（およびセルビア・クロアチア語）では一般的で、他のスラブ語には例がない。☜ 統語的バルカニズム

㉓Bul. Tova mi e jasno/Jasno mi e.　（私には明らかだ。）

２．２．ブルガリア語とチェコ語における不定性表現の形式（文法）構造比較分析

不定性表現は、語用論的には、名詞句の非指示性／指示性および指示対象の未知性条件により規定されることから、未知情報に関与的な文脈条件表示のための形式的手段が求められる。他方、語彙論的には、不定性プロパー表示子と見なされている汎スラブ語的'jeden'における意味素性の差異、具体的には指示対象の不可算性／抽象性vs.指示対象の単一性／具体性の対立が未知の文脈条件を反映することから、その対立への個別言語的関与の分布を観察することにより、両言語の不定性表現の比較分析が可能となる。

不定性表現（／名詞句）の定義：

不定性表現（／名詞句）とは、言語表現において最初に登場する指示物を指し、所与の伝達行為において話し相手に指示対象が同定されない（場合によっては、話し手にも確かでない）ような情報、つまり未知情報のことをいう。

㉔Cz. Budoucnost **jedné** vesnice （**ある(一つの)**村の将来） /名詞の指示的使用による特定の不定性/を表示

㉕Cz. Potkal jsem ženu (a ne muže). （私が出会ったのは女性だ(男性ではない)。） /非指示的使用による総称/を表示

不定性を表示する形式的手段の分布は、次の２つの基本的基準から決定される。

ｉ．名詞句の指示性vs.非指示性（㉖、㉗）

ii．指示対象の既知性vs.未知性（㉘、㉙）

●指示性vs.非指示性の例：

中欧スラブ語の'jeden'は常に指示的で指示対象の単一性／具体性を表示するのに対し、バルカン・スラブ語の'edin'は非指示的で指示対象の不可算性／抽象性を表示する。

㉖Cz. Včera jsem koupil **jednu** pěknu knižku. （昨日、私は**1冊の**きれいな本を買った。）

㉗Bul. **Edno** momiče ne biva da govori taka. /総称的/ （若い女の子は、そんな話し方をすべきではない。）

☜ biva da ~ (~すべき)は法動詞;動詞bivam(生じる・なる)の現在3人称単数形の固定化による助動詞化

●既知性vs.未知性の例：

話し手が話し相手に対して、自らには既知でありながら、（重要でない・適当でない・可能でない等の自らが判断した理由で）指示対象非同定の訳を伝えない場合には、汎スラブ語的な'jeden'が用いられる。他方、話し手が話し相手に対して、指示対象同定を可能にする情報を自らが持たないことを正確に伝える場合には、チェコ語の'jakýsi'や'nějaký'それにブルガリア語の'njakoj'や'njakakăv'等の不定代名詞が用いられる。

㉘Bul. Trjabva da govoriš s **njakakăv** logik. （君は、**なんらかの**論理を用いて話さねばならない。）

固有名詞に不定限定詞が付加される場合、前者に本来的な唯一限定機能が存在するため、限定詞の限定機能が弱められ、その結果それは別の異なる機能つまり「指示対象が話し手には既知であるものの話し相手には既知かどうか確かでないこと」を意味する機能、さらには「指示対象が話し手にとって重要でないこと」を含意する二次的モダリティ機能をも、それぞれ獲得することになる。

㉙Cz. Tam jsem se seznámil s **nějakou** Evou. /話し手に既知・話し相手に未知/ /二次的モダリティ機能/

（あちらで、私はエバ**とか言う**人と知り合いになった。）

２．３．ブルガリア語の定性／不定性表現の機能構造における特異性

通言語的には、（統語的意味を表示する結合価とともに）文脈条件を表示する定性／不定性と発話文のTh-Rh構成を表示するＦＳＰ*（機能的文構成）は、後者が前２者の修正原理であるという付帯条件下、言語の主要な３構成原理のうちの２つと見なされる。その際、支配的原理の種類と他の原理との組み合わせにより、言語のタイプ分けが可能となることから、ＦＳＰ機能類型論の考え方が提案される。この考え方に従うと、スラブ語はＦＳＰ支配タイプに属し、階層的上位にあるＦＳＰが（二次的構成原理と見なされる語順を含む）他の主要原理、特に定性／不定性に対して、最大の修正原理となることが大きな特徴である。本節では、Th-Rh語順に代表されるＦＳＰ原理の遵守を示す**汎スラブ語的特徴**：文頭不定Th主語名詞句つまり［Th・文頭・φ限定詞名詞句］の定性付

与への強い傾向を示す中欧スラブ語タイプに対して、有標のRh-Th語順に代表されるＦＳＰバリアントの許容を示すバルカン・スラブ語的特徴：文頭定Rh目的語名詞句つまり［Rh・文頭・限定詞付名詞句］の定性付与への傾向を示すバルカン・スラブ語タイプが、バルカニズムの一つ**前倚辞重複現象**を通じて、定性表現の文法化を実現する事例を観察し、後者タイプの特異性の抽出を試みる。下記の例より明らかなように、この現象がいわゆる分裂文の一種と見なされることから、限定詞のみの体系→（定→不定）冠詞の体系→形式主語構文の体系という欧州マクロ通時類型論において推論される文法化定性表現の史的発達のプロセス中において、（西欧語を最終段階に、）バルカン・スラブ語を中間段階に、中欧スラブ語を初頭段階に、それぞれ位置づけることが可能である。

バルカン・スラブ語の前倚辞重複現象：

ブルガリア語（特に口語）では、目的語が（文頭位置の）Rh要素である場合、重複前倚辞の文第２位置（つまりWackernagelの位置）が義務的となる。

㉚Bul. Kazax novini*te* na Ivan. （私は、イヴァンにそのニュースを知らせた。）

Na IVAN mu kazax novini*te* （私がそのニュースを知らせた**のは**、イヴァン(に)**だ**。）

NOVINI*TE* gi kazax na Ivan. （私がイヴァンに知らせた**のは**、そのニュース**だ**。）

（注）* FSP(機能的文構成)とは、文要素が文中で果たす伝達機能(FSP機能)に応じて配列される文構成を意味し、無標ではTh-Tr-Rh語順を基本配列とする。文の機能的構成の中心をなすのは、定動詞のTME(法・時制カテゴリー表示子)要素で、それが固有に担うTrPr(仲介・連結)役割を通じて、文全体は言語外現実と結びつき現実発話となる。他方、文内の機能的構成の中心を成すのは、定動詞の概念内容部分で、それが担うTr(移行)役割を通じて、文内部は要素の機能的結束(Th-Rhネクサス)を可能にする。(本城2003.を参照)

FSP基本配列:述語動詞文:ThPr-(ThPro-)Th-DTh-TrPr-(TrPro-)Tr-Rh-RhPr

３．結論

バルカン・スラブ語と中欧スラブ語の定性表現タイプ比較より、次の特徴が抽出された。

ｉ．冠詞と限定詞との併用により、前者における分裂文等の有標Rh-Th語順の許容

ii．Th-Rh語順と限定詞との協力により、後者における無標文頭Th要素の確立

参考文献：

Běličová, H. et al.(1996): *Slovanská věta* (*Slavic Sentence*), Euroslavica:Praha .

Comrie, B. et al.(1993): *The Slavonic Languages*, Routledge:London.

Erhart, A.(1982): *Indo-evropské jazyky* (*Indo-European Languages*), Academia:Praha.

本城2003:「チェコ語名詞句の機能構造」, *NIDABA* No.32.

PMČ: *Příiční mluvnice češtiny* (*A Concise Grammar of Czech*) edited by M. Grepl et al., NLN:Brno, 1995.

Svoboda, A.(1989): *Kapitoly z funkční syntaxe* (*Chapters from Functional Syntax*), SPN:Praha.